

各国の降水量と一人あたりの水資源量



出所：国土交通省「日本の水資源」平成25年度版

水資源量は小国なのに 水ストレスはない

国連の基準では、1日一人あたり最低20ℓの水を、居住地から1km以内の良質な水源から得られることが、「水ストレス」のない状態だそう。

蛇口をひねれば使い放題。日本人の1日あたりの水使用量は約300ℓ。工業用水や農業用水などを含めると年間約700m³になる。これはフランスとほぼ同程度で、米国のおよそ半分くらい。それほど多くはない印象だ。今年3月、国連の担当官がヨルダンの水不足を訴えたが、同国では年間一人あたり約145m³の水で生活している。日本では普段の生活で「水不足」がそれほど深刻になることはない。

しかし実は、日本人一人あたりが使える水資源量は、世界ランクで100番目あたり。年間平均降水量は、約1,700mmと世界平均の約2倍で、アマゾンを擁するブラジルなどとほぼ同じだ。だが一人あたりの水資源量となると、年間約3,400m³で、世界平均の半分以下になる。米国は日本の約3倍、カナダではなんと約25倍という実力差がつく。にもかかわらず、私たち日本人は、どうしてこんなに水ストレスを感じなくて済むのだろうか？

実態は外国の水を 消費している輸入大国

実はそこには、バーチャルウォーター（仮想水）の問題がある。小麦などの穀物

の栽培には大量の水を必要とする。1kgのトウモロコシの生産には1,800ℓ以上のかんがい用水を使う。それを食べて育つ牛の肉1kgには、2万ℓくらいの水を必要とする。

日本は穀物や畜産物を輸入することによって、毎年約640億m³の「仮想」の水を輸入している——つまり海外の水資源を消費している「水消費大国」なのだ。

この仮想水を、国民一人あたりになると年間約600m³を輸入していることになる。前述した年間700m³に仮想水を足すと年間1,300m³となり、米国と並ぶ。実態はこれが日本人一人あたりの水使用量で、たちまち日本は水使用大国になってしまう。つまり、日本人は使い放題の水使用の半分近くを、海外に依存しているのだ。

この仮想水問題、国際的には他国依存の大量消費を問題化しようとする動きがある。仮に健全な経済活動に基づいていたとしても、また、開発途上国などに環境負荷を強いていないとしても、利用可能な水資源量は限られており、時期的な変動も激しい。となると、仮想水に依存する日本は、常に世界の水資源動向を気にしなければならないことになる。

これまで「天の恵みでタダでおいしい」で済んでいた日本の水の話は、のど元すぎればお寒いことになりかねないグローバル経済の話だったのだ。

日本では水はタダ？
そんな楽天的な話を通る時代ではなくなっている……。

日本の「水」は とても高くつくっていませんか？